

第二次 柏崎市地域福祉計画
第二次 柏崎市社会福祉協議会地域福祉活動計画

あたたかい心で支え合い 人が豊かに輝くまち

平成24年度(2012年度)～平成28年度(2016年度)



本計画は、市政運営の基幹となる「柏崎市第四次総合計画」を上位計画としながら、他の計画などと整合を図り、地域住民をはじめ地域の様々な団体と行政が協働しながら、柏崎市の地域福祉を推進する、柏崎市と柏崎市社会福祉協議会が一体的計画として策定したものです。

柏崎市第四次総合計画

柏崎市地域福祉計画・柏崎市社会福祉協議会地域福祉活動計画

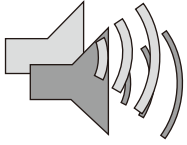
【地域福祉に関する具体的な取り組み】

- ・地域における福祉サービスの適切な利用の推進
- ・地域における社会福祉を目的とする事業の健全な発達
- ・地域福祉に関する活動への住民の参加の促進

地域住民等の参加

平成24年4月

1. 地域で支え合うまちづくり



(市民の声から)

- 地域の事業に、もっと参加してもらえるような取り組みができるといいなあ。
- 災害時の避難においても日常の関係づくりが一番大切だと思います。
- 週1回の乗り合いタクシーは、通院に活用している方も多く、大変活躍しています。
- 伝統的な行事や作業など町内の老人会でないとなかなか担えない役割があります。

(具体的目標)

- ① 高齢者(虚弱・認知症高齢者)、障がい者を見守る
- ② 福祉からみた生活交通を確保する
- ③ 災害時の要援護者を支援する
- ④ 高齢者や障がい者の居場所と出番をつくる

高齢者や障がい者などが、住み慣れた地域で暮らし続けることが出来るよう、安全で安心な支援体制をつくります。また、自分の力を信じ、何か打ち込めるものを持ち、自分らしく生きがいを持って暮らすことを推進します。

(取り組み例)

- みんなが普段からあいさつを心掛けます。また、町内会や地域コミュニティの活動に積極的に参加し、近隣住民と「顔見知り」の関係づくりを行います。(個人)
- 運転ボランティアの実施が可能な場合には、積極的に提供団体に登録し、協力します。(個人)
- 防災訓練には積極的に参加し、災害時の救助方法を積極的に学ぶとともに、自分の出来る事は協力します。(個人)
- 「お互いさま」の気持ちで、誰でも居場所と出番が必要とされていることを認識します。(個人)
- 地域コミュニティや町内会は、地域のサロンなど誰でも参加しやすい活動を行い、親しくなるきっかけをつくり、高齢者や障がい者の居場所を確保します。(団体)
- 地域コミュニティや町内会は、要援護者名簿を基に支援体制を整備し、必要に応じて見直しを行い、見守りにも活用します。(団体)
- 地域リーダーと地域の橋渡しになるよう連携をとります。(社会福祉協議会)
- 高齢者の閉じこもり予防や介護予防を推進するため、コミュニティデイホームなど地域での高齢者の場づくりを支援していきます。(行政)

見守りについて市外の民生委員とも活発な意見交換が行われています。



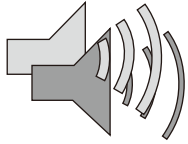
民生委員意見交換会

「お互いさま」の気持ちを考えました



視覚障がい者ガイドボランティア講座

2. 地域ではぐくむまちづくり



(市民の声から)

- 子どもが少ないため、学校の児童生徒も少人数。教育のことを考えてか、学校にあがるころになると、若手世帯が地域から離れて行ってしまいます。
- 子どもは地域の宝として地域全体が普通のこととして見守りができています。
- 伝統文化を子どもたちに伝承するため学校と地域の方々が連携をして世代間交流が行われています。
- 子どもたちがとても忙しいです。共催で、より質の高いイベントにしぼるなど、地域のイベントのあり方について、考えていく必要があります。

(具体的目標)

- ① 他人を思いやれる子どもを育てる
- ② プライバシーの垣根を下げて、隣近所で子どもを見守る
- ③ 大人も子どもも同じ目線でかかわり合う、楽しい集いの場をつくる
- ④ 楽しい子育て情報の受発信基地になる

子どもを自分の子どものように見守り、地域みんなで育てます。また、次代を担う子どもの心身の健康を守り、子どもに対する愛情をより一層深めるとともに、善悪の判断や社会のルールなど、子どもの成長過程で大切なことを教えながら、互いに育ち合う人づくりを目指します。

(取り組み例)

- 普段から思いやりの気持ちを持ち、感謝の言葉をかけられるように努めます。(個人)
- 仕事・家事・社会奉仕など、親は子どもにもその楽しさや大切さを体験させます。(個人)
- 生活の基本であるあいさつを、まず大人が実践することから始め、近所の人にもあいさつする習慣を身に付けます。(個人)
- いざという時に頼れる隣近所付き合いを、お茶飲みなどを通して築き上げます。(個人)
- 地域コミュニティや町内会では、地域の集いの場をコーディネートする若いリーダーを育成します。(団体)
- 地域コミュニティや町内会では、地域の素晴らしさや伝統行事の発掘など、後世に伝承する努力をします。(団体)
- 地域の子育て経験者の協力を得ながら、町内単位でふれあいサロンを充実させます。(社会福祉協議会)
- ファミリーサポートセンターについて、市民により一層利用のアピールをし、充実に努めます。(行政)

親子であ・そ・ぼ！



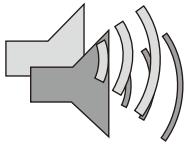
親子で楽しむ七夕コンサート(子育て支援センター)

幅広い世代交流が地域の見守りに繋がります。



地域の方とふれあう会(北鯖石小学校)

3. 健康で活気のあるまちづくり



(市民の声から)

- 公民館の事業で、キャンプや海を楽しむ会、高柳に自然散策に出かけたりと、学習を兼ねた活動をしています。
- 畑仕事と冬期間の雪ほげが健康づくりの源です。
- 地域活動に出てこない人が、閉じこもっているのではと心配です。
- 地域の特技を持つ人から色々教わりたいなあ。どんな達人がいるんだろう？

(具体的目標)

- ① 地域みんなで健康づくりに努める
- ② 高齢者がいつまでもいきいきと暮らせるまちをつくる
- ③ もっと生きがいを持てるまちを目指す

心と体の健康のため、地域みんなで健康づくりに取り組みます。また、高齢者の仲間づくりを支援するため、身近な人への声かけや誘い合いをきっかけに、参加しやすい地域行事の開催や交流の場づくりに努めるとともに、一人ひとりが生きがいのある毎日を意識して、元気な地域づくりを目指します。

(取り組み例)

- 個人にあった運動をする習慣を取り入れ、医者に頼り過ぎない健康づくりをします。(個人)
- 自分の健康状態を正しく知り、生活習慣を見直すことができるよう、毎年定期健診を受けます。(個人)
- 広報などの配布物(地元の行事案内等)に目を通し、情報入手に努め、また、入手した情報は仲間に伝えます。(個人)
- 家庭内で、「子どもの存在感」や「家族の団らん」を大切に、子どもの役割に対して、親は積極的に感謝の言葉を掛けます。(個人)
- 高齢者が働くことや、外出することが元気の秘訣であることを町内に広め、高齢者の家族に伝わる仕組みにしていきます。(団体)
- 地域コミュニティや町内会では、あいさつ運動など呼びかけの大切さを確認し合う場を持ちます。(団体)
- ふれあいサロンで健康に関する事業などを取り入れる際の相談に乗り、地域活動のサポートを行います。(社会福祉協議会)
- 定期健診の必要性について周知啓発を図るとともに、受診しやすい環境づくりに取り組みます。(行政)

みんなで参加し、一緒に活動することで続けられることもあります。



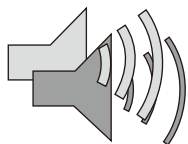
ウォーキング活動

子ども達に野菜づくりを教えることも大切な役割のひとつです。



土曜児童クラブ

4. みんなが参加し、活動できるまちづくり



(市民の声から)

- ・ 伝統文化を子どもたちに伝承するため、学校と地域の方々が連携をして世代間交流が行われています。
- ・ クリーンデーの活動が活発です。家族で参加する家庭も増えています。
- ・ 月に1回定例で、参加費500円でお酒も交えて楽しく交流をしています。普段勤めていてなかなか地域の集まりに参加できない男性の参加も多く、顔見知りになれば自然につながれる魅力があります。
- ・ 空き家を借りてサロンができたらいいなと思います。買い物の希望を取っておいて、サロンのときに渡せるような仕組みも魅力的です。
- ・ ボランティアに対する意識の高まりがあり、活動が活発になってきました。自分でできなくなったら次の世代の人を紹介するという動きも出てきました。

(具体的目標)

- ① 市民全員が地域活動(奉仕活動、行事、生涯学習活動など)に参加する
- ② 誰もが集える場をもっと増やす
- ③ 積極的に人材を活用する

町内や地域の行事などの活動を通じて、コミュニケーションを深め、活気のある地域づくりを目指します。また、身近な人や隣近所で声をかけ合い、気軽に参加できる「場」を拡充したり、あらゆる分野の人材を発掘し、その才能を地域活動に活かす工夫を行います。

(取り組み例)

- ・ 「クリーンデー」や「防災訓練」には、家族みんなで声を掛け合って参加します。(個人)
- ・ 積極的にいろいろな「場」に出掛け、多世代の人と話す機会をつくります。(個人)
- ・ 多様な人とつながって、個人や団体のネットワークを広げます。(個人)
- ・ 自分のやっている活動や、自分の得意なことは、遠慮せずにPRしていきます。(個人)
- ・ 地域コミュニティや町内会は、地域の伝統行事ができるだけ楽しく継続できるように工夫します。また、様々な団体と連携しながら実施します。(団体)
- ・ テーマやエリアごとに多様な人たちが気軽に参加できる「場」を企画するとともに、継続的に運営をサポートする人材を積極的に活用します。(団体)
- ・ ボランティア活動のきっかけや、楽しさを伝える機会を積極的につくります。(社会福祉協議会)
- ・ 地域行事の開催日が重ならないように調整を行い、市民全体で地域を盛り上げていくという雰囲気大切にします。(行政)

子どもから高齢者までみんなで楽しめる「場」です。



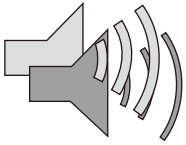
いこいの場「米山コミセン茶屋」

ボランティアに関心がある人が集まって、毎月定例で開催されています。



ボランティア交流会(総合福祉センター)

5. 安全で快適に暮らせるまちづくり



(市民の声から)

- 交通量が多いのに道路が狭く、歩道のないところがあり、子ども達の登下校の際は心配です。
- 建物が込み合っているところでは、雪の捨て場所に苦慮しています。
- 地域活動の中に、防災の取り組みを入れています。日ごろからの活動がいざという時に役立ちます。
- 災害時の助け合いは、日ごろの関係づくりが大切だと思います。
- 公共施設やコミュニティセンターに多目的トイレが整備されていると、外出の際の不安がひとつ解消されます。

(具体的目標)

- ① 安全な交通環境を整備し、快適に暮らす
- ② 防災・防犯情報を活用し、安全に暮らす
- ③ 物・心・情報のバリアフリーで共に暮らす

安全で安心な生活環境を整えるため、交通環境の整備や利用しやすい施設づくりを目指すとともに、協力して地域の整備に努めます。また、防災情報・防犯情報などを迅速かつ正確に発信し、地域の安全に努め、サポートの必要な人もそうでない人も共に支え合って、快適に暮らせるようにします。

(取り組み例)

- 歩く時も、自転車や自動車に乗る時も道路に出たら交通ルールを守ります。(個人)
- 自宅や車庫の雪を道路や歩道に出しません。(個人)
- 災害に応じた避難方法や避難場所を確認します。(個人)
- 悪徳商法や振り込め詐欺、不審な電話に気を付けるとともに、そういった情報の収集や発信に協力します。(個人)
- 地域コミュニティや町内会は、特に一人暮らしの高齢者などへの防災・防犯に関する情報の周知に努めます。(団体)
- 地域コミュニティや町内会は、誰もが安全で利用しやすいように施設を管理・運営します。(団体)
- 除雪ボランティアの登録を積極的に呼びかけ、必要な地域に対し迅速にボランティアを紹介できるように努めます。(社会福祉協議会)
- 公共施設は全てバリアフリーとなるよう努め、ユニバーサルデザインに配慮した生活環境づくりを推進していきます。(行政)

防災・防犯に対する意識が高くなってきています。



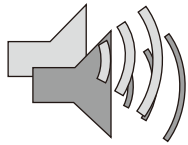
防犯取り組みの立て看板

誰もが快適に過ごせる環境を整えていきます。



障がい者などの駐車スペースの表示

6. 安心して利用しやすいしくみづくり



(市民の声から)

- ・相談窓口が多すぎて、とても相談しにくい。とにかくSOSをだしたら、すぐ相談にのってもらえる窓口がほしいです。
- ・配布物が多いために、かえって情報の見落としが多いです。情報発信する側も、しっかり意識してほしいです。
- ・子ども同士の交流も必要ですが、他地区から嫁いだ人もおり、親同士の交流や情報交換の場も必要です。
- ・住み慣れた地域で生活するということは、想像以上にきめ細やかなサービスが必要です。みんなで力をあわせて、必要なサービスを作っていかなければ。
- ・買物が大変なので、不便を解消するサービスもほしいけど、地区にある小さな商店も活用していきたいなあ。

(具体的目標)

- ① いつでもどこでもどんなことでも、相談できる仕組みを整える
- ② それぞれの人に合わせた情報を、提供・発信できるしくみを整える
- ③ 新しいしくみをつくるために、地域の「困っている」を明らかにする

相談できる窓口と話をしやすい相談員の設置に努めるとともに、必要な情報を必要な人が正確に入手できるように、情報を届けるしくみづくりを推進します。また、公的サービスにはない身近なサービスを提供したり、気軽に利用できるしくみづくりを目指します。

(取り組み例)

- ・いろいろなことを相談できる人を普段からつくっておき、困ったときは遠慮せず、我慢しすぎずに相談します。(個人)
- ・「広報かしわざき」をしっかりと読むなど、普段から積極的に情報を受け取る姿勢を持ちます。(個人)
- ・回覧板を回す時には、一声掛けて手渡しするように心掛けます。(個人)
- ・自分の身近な人が困っていたら、できるだけすぐ対応するようにします。自分で対応できないことは相談窓口へ報告・相談します。(個人)
- ・各団体は、魅力的で見やすいパンフレットを作成し、それぞれが持っている情報を積極的に発信します。(団体)
- ・地域コミュニティや町内会は、「困っていること」や「こんなサービスがあったらいいよね」を気軽に話し合えるような地域の会合を開催します。(団体)
- ・既存の総合相談事業を、より普及・拡大します。(社会福祉協議会)
- ・公益活動を行う市民団体の発掘、育成、自立をサポートします。(行政)

携帯などでも広報かしわざきが読めます。



広報かしわざきWEB版

困ったことは、ご近所さんに相談してみましよう。



ゴミステーションでの朝の様子(関町町内会)

市民と行政、民間団体の協働による計画の推進に向けて…

本計画は、地域住民、福祉関係者、ボランティア関係者などから構成された「地域福祉計画策定委員会」と社会福祉協議会及び行政の関係担当職員からなる「地域福祉計画実務者会議」が一緒になって策定作業を行いました。また、各地区で聞き取りを行い、地域住民の声をできるだけ計画に取り入れた内容となっています。したがって、本計画を実現させるためには、市民、関係団体、社会福祉協議会、行政がそれぞれの自らが果たすべき役割を認識し、協働しながら計画を推進していく必要があります。

- か** 輝くひとりひとりの活動が、
し 市民の幸せをはぐくみ、
わ 分かち合いの心と、交流の輪を広げます。
ざ 支え合い、みんなで築く地域づくりで、
き 気持ちの豊かな、輝くまち「柏崎」を目指します。



柏崎市地域福祉計画
(柏崎市)



柏崎市地域福祉活動計画
(柏崎市社会福祉協議会)

■発行者 柏崎市/社会福祉法人柏崎市社会福祉協議会

■編集者 柏崎市福祉保健部福祉課/社会福祉法人柏崎市社会福祉協議会

■連絡先

柏崎市福祉保健部福祉課

〒945-8511 柏崎市中央町5番50号
電話 0257-23-5111(代)
FAX 0257-21-1315
E-mail:fukushi@city.kashiwazaki.niigata.jp

社会福祉法人柏崎市社会福祉協議会

〒945-0045 柏崎市豊町3番59号
電話 0257-22-1411
FAX 0257-22-1441
E-mail:ks-14@syakyou.jp

この計画が、日頃市民の皆様が活動する際の参考となれば幸いです。
※詳しい計画内容を知りたい方は、上記連絡先まで連絡ください。